3月15日 同志小林の労農葬を斗ひ抜け!

一九三三・三・三

日本プロレタリア音楽家同盟
常任中央委員会書記局

わがプロレタリア文化運動の輝ける指導者同志小林多喜二は去る二月二十日築地署に於て、虐殺された。同志小林を殺したものは何であるか、それは既にさきに同志上田茂樹、岩田義道の貴き血を以て贖らはれた、その同じ絶対主義白色テロルの兇手である。このことは、全満洲を完全なる植民地化し、今又熱河省に強盗的帝国主義侵略を恣にしつゝある日本帝国主義の政策遂行と切り離されたことではない。即ち同志上田、岩田、更に又同志小林に加へられたこの非合法的暴虐は、この反動政策を労働者農民の全負擔に於て遂行せんがために労働者農民の前衛に、否、労農大衆全体に向けられた攻撃以外の何者でも無い。さうだ。同志小林の死は我が労働者農民の全階級に対して突き出された、日本帝国主義の兇悪残忍なる攻撃である!

三・一五!同志小林の労農葬こそは、この憎んでも憎み切れぬ攻撃に対して、白テ反対、同志小林虐殺抗議カムパニアとして日本プロレタリアート農民が組織する第一回の逆襲なのだ。このカンパニアは、全国各地の地域、各団体によって斗はれるが、就中東京に於ては三・一五午后六時築地小劇場に於て斗はれる。

わが日本プロレタリア音楽家同盟はその全同盟員を点検し、更にサークルその他影響下大衆を総動員してこの日の斗争を、中にも東京に於ける労農葬を成功的に斗ひ抜かねばならぬ。之に対する不当なる抑圧妨害に対する大衆的抗議に於ては、わが同盟員は大衆の先頭に立って英雄的斗争力を示さねばならぬ。

労農葬に至る十日間の準備期間は如何に斗はるべきか。

一、アヂプロ活動

a、歌曲集「前哨の歌」第二輯、(同志小林追悼の歌、マルクスの歌、他三曲)の大衆化(十日発行)

b、機関誌第二号マルクスデー記念、又同志小林追悼特輯号。十一、十二日頃発行

c アヂプロ隊(移動音楽隊)の活動　わが同盟の日常的な創造的活動の形態として移動音楽隊の重要性に対する再認識は緊急の日程事項である。三・一五労農葬をモメントとして、この問題は今特に表面に浮び上ってゐる。(就中東京支部に於て)その強団を編成、創造的方法(緊急問題として特に演奏の)の創意、又活動場面の積極的開拓等を、三・一五目指して強行せよ!

二、組織活動

現在のわが同盟は全国的に見て組織力の弱いことは既に更めて云ふ迄もない。殊に同盟の中核をなす東京支部に於て組織活動は最近稍々目立ってなき迄の無統制、弱まりを見せて来た。(最近にそれは稍々立直りつゝあるが)三・一五労農葬に至る迄の短い期間にこの弱さは急速に飛躍的に克服されねばならぬ。組織部会の開催、地区オルグ・キャップの決定、サークルへの同盟員配属等が急速に行はれて現在の極めて手工業的な便宜主義が克服されねばならぬ。而して斯る決定は厳に具体化されねばならぬ。斯くして、サークルに於て、同志小林虐殺の意味、労農葬の意義に関するアヂ・プロが必ず有効な成果を挙げねばならぬ。

三　救援活動

労農葬基金、遺族救援金として各支部基準は一人当五銭を最低限とし、所属同盟員の負擔を決定し、又サークルの会合や移動活動等の機会を捉へて、大衆的、逆宣伝的に醵集し、之を、十四日迄に本部に送付せよ。又各支部基準はサークルで自主的に作られた詩や文を此に都度送付せよ。

四

以上の各事項は実践されねばならない、若々しき階級的熱意を以て! わが同盟の成長を阻む実践的日和見主義も、労農葬への実践に依って打破れ! 逝ける同志小林は、右翼的脱落——実践的日和見はその單なる形態にすぎない——に対し特に鋭く警戒を叫び続けた指導者だ。我々が音楽運動に於て同志小林の遺志を正しく継ぐには、同志小林の労農葬斗争に於て以上の諸事項を具体的に実践する事を以て第一歩とする。

三・一四マルクスデーは第三次革命競争の中間ゴールである。今やこの中間ゴール目指す激烈な斗争以外マルクス・レーニン主義普及カンパ——の斗争は戦争反対、××制テロル反対の階級的斗争カンパの斗争以外のものでないことをコップの指令が正しく示してゐる。我々は中間ゴールに一つの目標を立てた。今迄の斯東京支部をはじめとして、目標への肉迫は好成績ではない。併し今から労農葬への正しき実践のみが我々の努力を飛躍させ、我々を正しく階級的に成長させることであらう。労農葬への実践のみが、革命の成功的遂成の鍵を蔵するものであることを忘れることは出来ない。

××制白色テロル絶対反対!
同志小林の虐殺に抗議しろ!
検挙・拷問・投獄絶対反対!
政治犯人の即時無罪釈放!
文化活動の自由獲得!
中国革命圧殺・中国ソヴエート破壊・ソヴエート同盟干渉の帝国主義戦争反対!
国際的提携の強化!
同志小林労農葬の成功的遂行万才!
日本プロレタリア文化聯盟の旗の下に!